

メキシコシティカルツツ美術館にて 日本の美術品を期間限定で展示

7月14日からメキシコシティカルツツ美術館にて初公開となる日本絵画を多数展示する期間限定の展示会が始まりました。"ほとんど金、ほとんど琥珀、ほとんど光~メキシコ風景画から日本風景画へ~Casi oro, casi ámbar, casi luz. Bienvenida del paisaje mexicano al paisaje japonés"と題されたこの展示会は、油彩、水彩、素描、水墨、色彩、屏風、巻物など、約100点の作品を展示します。富士山からメキシコの火山まで両国がどのように結ばれているかを表し、日本とメキシコ、伝統と革新、二つの対話が実現します。



<https://www.mexicanisimo.com.mx/2023/07/museo-kaluz-da-la-bienvenida-al-paisaje-japones/>

展示品の多くは19世紀初頭から20世紀半ばまでの作品で、これは両国での近代国家の設立と国民のアイデンティティが形成された時期と一致します。メキシコの風景に関しては、Eugenio Landesio (1879年) や José María Velasco (1840-1912年)、Gerardo Murillo 'Dr. Atl' (1875-1964年)、Jesús Reyes Meza (1924-2011年)、Adolfo Best Maugard (1891-1964年)、Alfredo Zalce (1908-2003年) などのアーティストが目立ち、日本では堂本印象 (1891-1975年)、平井樗仙 (1889-1969年)、都路華香 (1870-1931年)、山元春挙 (1871-1933年) などの作品が目立ちます。

今回のメキシコ側のキュレーター、Luis Rius Casoは、「この美術館にはメキシコの原風景の素晴らしいコレクションがあります。今私達は国内外のアーティストがメキシコの自然と社会をどのように表現し、国家のアイデンティティ形成に貢献したかを感じてもらえるように作品を選びました」と話しています。

「私達は日墨の芸術を通して対話ができることにとても感動しています。この展示会を通じてメキシコの皆さんが、日墨両国の文化の他の側面について探求できるように準備してきました。両国の距離や歴史的、文化的違いを考慮するとこのコラボレーションはとても魅力的なものとなるでしょう」と日本側のキュレーター Amaury García Rodríguezは話しています。

今回の展示会のタイトルは日本の俳句に最も近づいたメキシコの詩人、ホセ・フアン・タブラーダの「やなぎ（El saúz）若葉はほとんど金、ほとんど琥珀、ほとんど光」に由来しています。



◆展示会について

この展示は、メキシコと日本の風景画の類似性と対比を反映させる5つのセクションに分かれています。

第一章 胎動（Gestaciones）

まずは誕生というセクションから始まります。日本では14世紀に中国に由来する山水画という風景を水で表現する技法がありましたが、メキシコでは風景という芸術的表現は、イタリアの画家Eugenio Landesioの作品と影響によって19世紀に開発されるまでありませんでした。

第二章 地域（Territorios）

社会の変化、近代国家の建設、風景の表現を通じ国民のアイデンティティ形成を紐解きます。ここではJosé María Velascoなどメキシコ風景画の開拓者たちの作品に注目します。さらに、San Carlos National Academy、東京美術学校、京都府画学校など芸術学校の影響についても強調されています。これらの学校は国民的なシンボルの新しい表現方法の確立に大きな影響を残しました。

第三章 諸相（Facetas）

メキシコと日本の風景画の多面性を探ります。自然に対する情熱的な視点から、森、川、山といった自然風景、抽象的な風景、メタファーの視点、社会的風景、そして風景に映し出される詩まで、さまざまな角度から探ります。

第四章 探索（Exploraciones）

両国で風景画に革新をもたらした勇敢な芸術家たちに迫ります。彼らは材料、技術、形に対する独自の実験を通じて、芸術の新しい境地を開き、大きな影響を与えました。20世紀後半から今日まで、日本との関わりはメキシコの一部の芸術家たちに影響を及ぼしています。

第五章 反響（Ecos）

禅の思想、書道、墨、そして紙の使用に関する作品を展示します。ここではメキシコの作品に関する日本の表現方法の影響について探ります。

◆展示会の様子



◆日本文化体験会も実施

展示に合わせて、カルツ美術館では俳句、折り紙、風景画、写真などの無料ワークショップを開催します。またメキシコの日本大使館とメキシコ日本財団によるメッセージや専門家によるトークなども予定しています。詳しい日程などは美術館の公式サイト、SNSよりご確認ください。

◆カルツ美術館について

Museo Kaluzは、メキシコシティにある美術館です。各展示を通じてさまざまな時代の芸術作品間の対話を生み出しています。Kaluzコレクションは、Antonio del Valle Ruiz氏により3つの目的を持って運営されています。①メキシコの芸術的遺産の回復と保全に貢献すること、②作品と著者の研究と普及を通じてその知識を発信すること、③国の現実に近い芸術表現を通じて自己認識の強化を図ることです。



【展覧会概要】

- ◆展覧会名：ほとんど金、ほとんど琥珀、ほとんど光~メキシコ風景画から日本風景がへ
~Casi oro, casi ámbar, casi luz. Bienvenida del paisaje mexicano al paisaje japonés
- ◆会期：2023年7月14日（金）～10月30日（月）
- ◆休館日：火曜日
- ◆開館時間：午前10時～午後6時
- ◆会場：カルツ美術館 06300 メキシコシティ セントロ・イストリコ アビニダ・イダルゴ85
- ◆公式サイト：<https://museokaluz-apps.com/micrositio/paisajejapones/index.html>

＜本件に関するお問い合わせ＞

在日メキシコ大使館 メディア・コミュニケーション
担当：土屋

E-mail : mediajpn01@sre.gob.mx

TEL. 03-3581-1131 Ext.4012